

建 整 第 431 号

平成20年10月14日

国土交通省道路局長 様

志摩市長 竹内 千尋



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記について、
別紙のとおり回答致します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

◎平成25年には伊勢神宮の第62回式年遷宮が執り行われることにともない、全国各地から多くの観光客が訪れることから、統一した道路標識・案内標識の整備や観光客への安全に配慮した歩道・車道分離化およびバリアフリー化などの対策が早急に必要である。伊勢志摩国立公園という恵まれた自然環境を保ちながら、道路環を質的に向上させていくことが必要である。

◎当市では、英虞湾周遊ルート of 構築を目指すため、近畿自動車道伊勢線・伊勢二見鳥羽ラインの両路線とを結ぶ伊勢・志摩連絡道路(第二伊勢道路)の早期完成とその実現のために必要不可欠な英虞湾架橋の整備促進を強く要望する。

また、地域の活性化および生活圏拡大のために最も重要である国道167号(鵜方磯部バイパス)・国道260号(志摩バイパス)・主要地方道浜島阿児線(浜島バイパス)の早期完成を強く要望する。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状	○課題
◎志摩地方の機関医療の中核となっている三重県立志摩病院において、小児科・産科の医師が不足している関係から、緊急治療を要する患者は伊勢市の山田赤十字病院まで搬送している。しかしながら、伊勢市までの搬送アクセスである主要地方道伊勢磯部線(伊勢道路)における事故発生件数が多く、過去3年平均で140件を超えており危険な状態である。 ◎本市における主要な幹線道路として、国道167号および県道鳥羽阿児線(パールロード)で鳥羽市方面へ、主要地方道伊勢磯部線(伊勢道路)で伊勢市へ連絡するとともに、国道260号は御座から海上ルートを経て浜島へ通じています。市民生活は、これら道路網の整備や情報通信技術の発展にともなって、その生活圏は拡大している。 ◎生活道路は、市民生活の根幹を担っており、幹線道路へのアクセスや地域の防災活動を支える重要な施設です。住環境と密接にかかわって市民生活に直結した道路整備が求められている。 ◎本市における道路(市道)を管理している状況としては、路線数は276路線で路線延長は632,429mである。	◎地域医療の中核である三重県立志摩病院の医師不足が深刻な状況で、産科・小児科等の緊急を要する患者は伊勢市の山田赤十字病院まで搬送しているが、連絡道路(主要地方道伊勢磯部線)の事故多発問題と道路構造問題(道路狭小)等、迅速な救急活動に支障をきたしている。また同時に、災害時における緊急輸送路としても最も重要な路線であるため、早急な道路拡幅等道路整備の急務もしくは伊勢・志摩連絡道路(第二伊勢道路)の早期完成が必要である。 ◎地震発生時における孤立地域の解消や救急医療施設へのアクセス、防災拠点となる公共施設や緊急物資等の緊急支援ルートが速やかに確保されるように、発生が予想される大規模地震(東海・東南海・南海地震)に備えた道路や橋梁の耐震化が必要である。 ◎主要道路は車両の大型化や交通量の増加もあり、歩道・車道分離、バリアフリー化が望まれており、伊勢志摩国立公園という立地条件を踏まえた、道路環境の質的向上が必要である。 ◎日常生活の利便性を高めるための道路網としての生活道路の整備が必要である。 ◎当市では、観光・リゾート地として季節により主要幹線道路の渋滞など交通環境は悪化し、交通事故の発生する危険性が増加している。なかでも、交通弱者であり市の統計でも増加傾向にある高齢者や子どもたちの交通事故が懸念されている状況から、主要幹線道路と通学路への歩道整備が早急に必要である。

②-2 地域の目指すべき将来像

三重県志摩市

◎リアス式海岸という入り組んだ地形により単一的な整備しかなかった経緯があるが、旧五町が志摩市として合併した利点を生かし、今後広域的な道路ネットワークの整備が第一に必要であると考えます。

具体的には、国道260号の御座から浜島への海上ルートを道路で結ぶ英虞湾架橋の実現を含めた英虞湾周遊ルートの策定、市外から訪れる観光客が伊勢志摩国立公園という恵まれた自然環境に親しんでもらうためのバイパスの整備等を目指している。

◎第二には道路環境の向上が挙げられる。統一した道路標識・案内標識を整備することにより、観光客等だれにでも分かりやすく景観に配慮した標識の設置を目指している。また、道路の沿道景観の向上のため、新設道路の歩道には街路樹の設置事業を展開している。他にも、美化パートナー・各種団体およびボランティア組織などと連携を密にし、市民と協働しながらの道路清掃や、地元自治会とも協力しながら草刈作業を行うなど、地域住民とともに安心して快適な道づくりを目指している。

◎交通弱者(高齢者・子ども・障がい者)等への交通安全の観点から、主要道路・通学路への歩道の設置・確保による危険箇所の解消に努めるとともに、段差解消など道路のバリアフリー化を目指している。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

三 重 県 志 摩 市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	◎美化パートナー助成事業	◎市民や各種ボランティア団体と協働による道路清掃・植栽等を行うことにより、不法投棄等の抑制や公共道路への認識の強化が期待できる。	毎年各種団体から申請があり、ある一定金額を助成し道路美化に効果を上げている。
	◎道路関連原材料費助成事業	◎自治会等の団体による道路一日清掃への助成として、草刈機燃料や碎石など原材料費を助成することにより、当市の道路事業費抑制が期待できる。	毎年、複数自治会から申請があり、ある一定金額を助成している。道路維持管理費抑制に効果が出ている。